



スタック マネージャおよびハイ アベイラ ビリティ コマンド

- `debug platform stack-manager` (2 ページ)
- `main-cpu` (3 ページ)
- `mode sso` (4 ページ)
- `policy config-sync prc reload` (5 ページ)
- `redundancy` (6 ページ)
- `redundancy config-sync mismatched-commands` (7 ページ)
- `redundancy force-switchover` (9 ページ)
- `redundancy reload` (10 ページ)
- `reload` (11 ページ)
- `session` (13 ページ)
- `show redundancy` (14 ページ)
- `show redundancy config-sync` (18 ページ)
- `show switch` (21 ページ)
- `show switch stack-mode` (25 ページ)
- `stack-mac persistent timer` (26 ページ)
- `stack-mac update force` (28 ページ)
- `standby console enable` (29 ページ)
- `switch clear stack-mode` (30 ページ)
- `switch switch-number role` (31 ページ)
- `switch stack port` (33 ページ)
- `switch priority` (35 ページ)
- `switch provision` (36 ページ)
- `switch renumber` (38 ページ)

debug platform stack-manager

スタック マネージャ ソフトウェアのデバッグをイネーブルにするには、特権 EXEC モードで **debug platform stack-manager** コマンドを使用します。デバッグをディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
debug platform stack-manager {level1 | level2 | level3 | sdp | serviceability | sim | ssm | trace}
[switch switch-number]
no debug platform stack-manager {level1 | level2 | level3 | sdp | serviceability | sim | ssm | trace}
[switch switch-number]
```

構文の説明

level1	レベル 1 のデバッグ ログをイネーブルにします。
level2	レベル 2 のデバッグ ログをイネーブルにします。
level3	レベル 3 のデバッグ ログをイネーブルにします。
sdp	スタック ディスカバリ プロトコル (SDP) のデバッグ メッセージを表示します。
serviceability	スタック マネージャ サービスアビリティのデバッグ メッセージを表示します。
sim	スタック情報モジュールのデバッグ メッセージを表示します。
ssm	スタック ステートマシンのデバッグ メッセージを表示します。
trace	スタック マネージャの入口と出口のデバッグ メッセージを追跡します。
switch <i>switch-number</i>	(任意) デバッグ オンをイネーブルにするスタック メンバー番号を指定します。指定できる範囲は 1～9 です。

コマンド デフォルト デバッグはディセーブルです。

コマンド モード 特権 EXEC

コマンド履歴	リリース	変更内容
	Cisco IOS XE Everest 16.5.1a	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン このコマンドは、スタック対応スイッチのみでサポートされています。

undebug platform stack-manager コマンドは **no debug platform stack-manager** コマンドと同じです。

main-cpu

冗長メイン コンフィギュレーション サブモードを開始し、スタンバイスイッチをイネーブルにするには、冗長コンフィギュレーション モードで **main-cpu** コマンドを使用します。

main-cpu

構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

冗長コンフィギュレーション (config-red)

コマンド履歴

リリース	変更内容
Cisco IOS XE Everest 16.5.1a	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

冗長メイン コンフィギュレーション サブモードから、**standby console enable** コマンドを使用してスタンバイスイッチをイネーブルにします。

次に、冗長メインコンフィギュレーションサブモードを開始し、スタンバイスイッチをイネーブルにする例を示します。

```
デバイス(config)# redundancy  
デバイス(config-red)# main-cpu  
デバイス(config-r-mc)# standby console enable  
デバイス#
```

mode sso

冗長モードをステートフルスイッチオーバー（SSO）に設定するには、冗長コンフィギュレーション モードで **mode sso** コマンドを使用します。

mode sso

構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

冗長コンフィギュレーション

コマンド履歴

リリース	変更内容
Cisco IOS XE Everest 16.5.1a	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

mode sso コマンドは、冗長コンフィギュレーション モードでのみ入力できます。

システムを SSO モードに設定する場合は、次の注意事項に従ってください。

- SSO モードをサポートするために、スタック内のスイッチでは同一の Cisco IOS イメージを使用する必要があります。Cisco IOS リリース間の相違のために、冗長機能が動作しない場合があります。
- モジュールの活性挿抜（OIR）を実行する場合、モジュールの状態が移行状態（Ready 以外の状態）である場合にだけ、ステートフルスイッチオーバーの間にスイッチはリセットし、ポート ステートは再起動します。
- 転送情報ベース（FIB）テーブルはスイッチオーバー時に消去されます。ルーテッドトラフィックは、ルート テーブルが再コンバージェンスするまで中断されます。

次の例では、冗長モードを SSO に設定する方法を示します。

```
デバイス(config)# redundancy
デバイス(config-red)# mode sso
デバイス(config-red)#
```

policy config-sync prc reload

Parser Return Code (PRC) の障害がコンフィギュレーションの同期中に発生した場合にスタンバイスイッチをリロードするには、冗長コンフィギュレーション モードで **policy config-sync reload** コマンドを使用します。Parser Return Code (PRC) の障害が発生した場合にスタンバイスイッチがリロードしないように指定するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

policy config-sync {bulk|lbl} prc reload
no policy config-sync {bulk|lbl} prc reload

構文の説明

bulk バルク コンフィギュレーション モードを指定します。

lbl 1行ごと (lbl) のコンフィギュレーションモードを指定します。

コマンドデフォルト

このコマンドは、デフォルトではイネーブルです。

コマンドモード

冗長コンフィギュレーション (config-red)

コマンド履歴

リリース	変更内容
Cisco IOS XE Everest 16.5.1a	このコマンドが導入されました。

次に、Parser Return Code (PRC) の障害がコンフィギュレーションの同期化中に発生した場合に、スタンバイスイッチがリロードされないように指定する例を示します。

```
デバイス(config-red)# no policy config-sync bulk prc reload
```

redundancy

冗長コンフィギュレーションモードを開始するには、グローバルコンフィギュレーションモードで **redundancy** コマンドを使用します。

redundancy

構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

グローバル コンフィギュレーション (config)

コマンド履歴

リリース	変更内容
Cisco IOS XE Everest 16.5.1a	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

冗長コンフィギュレーションモードは、スタンバイスイッチをイネーブルにするために使用されるメイン CPU サブモードを開始するために使用されます。

メイン CPU サブモードを開始するには、冗長コンフィギュレーションモードで **main-cpu** コマンドを使用します。

スタンバイスイッチを有効にするには、メイン CPU サブモードから **standby console enable** コマンドを使用します。

冗長コンフィギュレーションモードを終了するには、**exit** コマンドを使用します。

次に、冗長コンフィギュレーションモードを開始する例を示します。

```
デバイス(config)# redundancy
デバイス(config-red)#
```

次の例では、メイン CPU サブモードを開始する方法を示します。

```
デバイス(config)# redundancy
デバイス(config-red)# main-cpu
デバイス(config-r-mc)#
```

redundancy config-sync mismatched-commands

アクティブスイッチとスタンバイスイッチの間に設定の不一致があるときにスタンバイスイッチのスタックへの参加を許可するには、特権 EXEC モードで **redundancy config-sync mismatched-commands** コマンドを使用します。

redundancy config-sync {ignore | validate} mismatched-commands

構文の説明	ignore Mismatched Command List を無視します。
	validate 修正した実行コンフィギュレーションに基づいて Mismatched Command List を再確認します。

コマンドデフォルト なし

コマンドモード 特権 EXEC

コマンド履歴	リリース	変更内容
	Cisco IOS XE Everest 16.5.1a	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン スタンバイスイッチの起動中にアクティブスイッチの実行コンフィギュレーションのコマンド構文チェックが失敗した場合、**redundancy config-sync mismatched-commands** コマンドを使用して、アクティブスイッチの Mismatched Command List (MCL) を表示し、スタンバイスイッチをリブートします。

次に、不一致コマンドのログ エントリの例を示します。

```
00:06:31: Config Sync: Bulk-sync failure due to Servicing Incompatibility. Please check
full list of mismatched commands via:
show redundancy config-sync failures mcl
00:06:31: Config Sync: Starting lines from MCL file:
interface GigabitEthernet7/7
! <submode> "interface"
- ip address 192.0.2.0 255.255.255.0
! </submode> "interface"
```

すべての不一致コマンドを表示するには、**show redundancy config-sync failures mcl** コマンドを使用します。

MCL を消去するには、次の手順を実行します。

1. アクティブスイッチの実行コンフィギュレーションからすべての不一致コマンドを除外します。
2. **redundancy config-sync validate mismatched-commands** コマンドを使用して、修正した実行コンフィギュレーションに基づいて MCL を再確認します。
3. スタンバイスイッチをリロードします。

次の手順に従って、MCL を無視することもできます。

1. **redundancy config-sync ignore mismatched-commands** コマンドを入力します。
2. スタンバイスイッチをリロードします。システムは SSO モードに移行します。



(注) 不一致コマンドを無視する場合、アクティブスイッチとスタンバイスイッチの同期していないコンフィギュレーションは存在したままです。

3. 無視された MCL は、**show redundancy config-sync ignored mcl** コマンドを使用して確認できます。

コンフィギュレーションファイルの互換性の問題が原因で、アクティブスイッチとスタンバイスイッチ間で SSO モードを確立できない場合、Mismatched Command List (MCL) がアクティブスイッチで生成され、スタンバイスイッチに対して Route Processor Redundancy (RPR) モードへのリロードが強制されます。

次の例に、変更したコンフィギュレーションとの Mismatched Command List を再検証する方法を示します。

```
デバイス# redundancy config-sync validate mismatched-commands
デバイス#
```


redundancy force-switchover

アクティブスイッチとスタンバイスイッチのスイッチオーバーを強制的に実行するには、スイッチスタックの特権 EXEC モードで **redundancy force-switchover** コマンドを使用します。

redundancy force-switchover

構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

コマンドデフォルト

なし

コマンドモード

特権 EXEC

コマンド履歴

リリース	変更内容
Cisco IOS XE Everest 16.5.1a	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

手動で冗長スイッチに切り替えるには、**redundancy force-switchover** コマンドを使用します。冗長スイッチは Cisco IOS イメージを実行する新しいアクティブスイッチになり、モジュールはデフォルト設定にリセットされます。

古いアクティブスイッチは新しいイメージで再起動し、スタックに参加します。

アクティブスイッチで **redundancy force-switchover** コマンドを使用すると、アクティブスイッチのスイッチポートがダウン状態になります。

部分リングスタック内のスイッチにこのコマンドを使用すると、次の警告メッセージが表示されます。

```
デバイス# redundancy force-switchover
Stack is in Half ring setup; Reloading a switch might cause stack split
This will reload the active unit and force switchover to standby[confirm]
```

次の例では、アクティブ スーパーバイザ エンジンからスタンバイ スーパーバイザ エンジンに手動で切り替える方法を示します。

```
デバイス# redundancy force-switchover
デバイス#
```

redundancy reload

スタック内のいずれか、またはすべてのスイッチを強制リロードするには、特権 EXEC モードで **redundancy reload** コマンドを使用します。

redundancy reload {peer | shelf}

構文の説明

peer ピア ユニットをリロードします。

shelf スタック内のすべてのスイッチが再起動します。

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

特権 EXEC

コマンド履歴

リリース	変更内容
Cisco IOS XE Everest 16.5.1a	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

このコマンドを使用する前に、詳細情報についての「Performing a Software Upgrade」の項を参照してください。

スタック内のすべてのスイッチをリブートするには、**redundancy reload shelf** コマンドを使用します。

次に、手動でスタック内のすべてのスイッチをリロードする例を示します。

```
デバイス# redundancy reload shelf
```

```
デバイス#
```

reload

スタックメンバをリロードし、設定変更を適用するには、特権 EXEC モードで **reload** コマンドを使用します。

reload [{/noverify | /verify}] [{LINE | at | cancel | in | slot *stack-member-number* | standby-cpu}]

構文の説明

/noverify	(任意) リロードの前にファイル シグニチャを確認しないように指定します。
/verify	(任意) リロードの前にファイル シグニチャを確認します。
LINE	(任意) リセットの理由。
at	(任意) リロードを実行する時間を hh:mm 形式で指定します。
cancel	(任意) 保留中のリロードをキャンセルします。
in	(任意) リロードを実行する間隔を指定します。
slot	(任意) 指定したスタックメンバに変更を保存し、再起動します。
stack-member-number	(任意) 変更を保存するスタックメンバ番号。指定できる範囲は 1 ~ 8 です。
standby-cpu	(任意) スタンバイルートプロセッサ (RP) をリロードします。

コマンドデフォルト

スタック メンバをただちにリロードし、設定の変更を有効にします。

コマンドモード

特権 EXEC

コマンド履歴

リリース	変更内容
Cisco IOS XE Everest 16.5.1a	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

スイッチスタックに複数のスイッチがある場合に **reload slot stack-member-number** コマンドを入力すると、設定の保存を要求するプロンプトが表示されません。

例

次の例では、スイッチ スタックをリロードする方法を示します。

```

デバイス# reload
System configuration has been modified. Save? [yes/no]: yes
Reload command is being issued on Active unit, this will reload the whole stack
    
```

```
Proceed with reload? [confirm] yes
```

次の例では、特定のスタック メンバをリロードする方法を示します。

```
デバイス# reload slot 6  
Proceed with reload? [confirm] y
```

次の例では、単一スイッチのスイッチ スタック（メンバスイッチが1つだけ）をリロードする方法を示します。

```
デバイス# reload slot 3  
System configuration has been modified. Save? [yes/no]: y  
Proceed to reload the whole Stack? [confirm] y
```

session

特定のスタックメンバの診断シェルまたはスタンバイデバイスの Cisco IOS プロンプトにアクセスするには、アクティブデバイスの特権 EXEC モードで **session** コマンドを使用します。

session {standby ios | switch [*stack-member-number*]}

構文の説明	standby ios	スタンバイデバイスの Cisco IOS プロンプトにアクセスします。 (注) このコマンドを使用してスタンバイデバイスを設定することはできません。
	switch	スタック メンバの診断シェルにアクセスします。
	<i>stack-member-number</i>	(任意) active switch からアクセスするスタック メンバの番号。指定できる範囲は 1 ~ 8 です。
コマンドデフォルト	なし	
コマンドモード	特権 EXEC	
コマンド履歴	リリース	変更内容
	Cisco IOS XE Everest 16.5.1a	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン スタンバイデバイスで Cisco IOS プロンプトにアクセスした場合、システムプロンプトに `-stby` が付加されます。スタンバイデバイスを `デバイス-stby>` プロンプトで設定することはできません。

スタック メンバの診断シェルにアクセスした場合、システムプロンプトに `(diag)` が付加されます。

例

次の例では、スタック メンバ 3 にアクセスする方法を示します。

```
デバイス# session switch 3
デバイス(diag)>
```

次の例では、スタンバイデバイスにアクセスする方法を示します。

```
デバイス# session standby ios
デバイス-stby>
```

show redundancy

冗長ファシリティ情報を表示するには、特権 EXEC モードで **show redundancy** コマンドを使用します。

```
show redundancy [{clients|config-sync|counters|history [{reload|reverse}]|slaves[slave-name]
{clients|counters}|states|switchover history [domain default]]
```

構文の説明

clients	(任意) 冗長ファシリティ クライアントに関する情報を表示します。
config-sync	(任意) コンフィギュレーション同期の失敗または無視された Mismatched Command List (MCL) を表示します。詳細については、 show redundancy config-sync (18 ページ) を参照してください。
counters	(任意) 冗長ファシリティ カウンタに関する情報を表示します。
history	(任意) 冗長ファシリティの過去のステータスのログおよび関連情報を表示します。
history reload	(任意) 冗長ファシリティの過去のリロード情報を表示します。
history reverse	(任意) 冗長ファシリティの過去のステータスおよび関連情報のログを逆順で表示します。
slaves	(任意) 冗長ファシリティのすべてのスレーブを表示します。
<i>slave-name</i>	(任意) 特定の情報を表示する冗長ファシリティ スレーブの名前。指定スレーブのすべてのクライアントまたはカウンタを表示するには、追加でキーワードを入力します。
clients	指定スレーブのすべての冗長ファシリティ クライアントを表示します。
counters	指定スレーブのすべてのカウンタを表示します。
states	(任意) 冗長ファシリティの状態 (ディセーブル、初期化、スタンバイ、アクティブなど) に関する情報を表示します。
switchover history	(任意) 冗長ファシリティのスイッチオーバー履歴に関する情報を表示します。
domain default	(任意) スイッチオーバー履歴を表示するドメインとしてデフォルト ドメインを表示します。

コマンド デフォルト なし

コマンド モード 特権 EXEC (#)

コマンド履歴

リリース

変更内容

Cisco IOS XE Everest 16.5.1a このコマンドが導入されました。

次の例では、冗長ファシリティに関する情報を表示する方法を示します。

```

デバイス# show redundancy
Redundant System Information :
-----
    Available system uptime = 6 days, 9 hours, 23 minutes
Switchovers system experienced = 0
    Standby failures = 0
    Last switchover reason = not known

    Hardware Mode = Simplex
Configured Redundancy Mode = SSO
Operating Redundancy Mode = SSO
    Maintenance Mode = Disabled
    Communications = Down          Reason: Simplex mode

Current Processor Information :
-----
    Active Location = slot 1
    Current Software state = ACTIVE
    Uptime in current state = 6 days, 9 hours, 23 minutes
    Image Version = Cisco IOS Software, IOS-XE Software, Catalyst 3
850 L3 Switch Software (CAT3850-UNIVERSALK9-M), Version 03.08.59.EMD EARLY DEPLO
YMENT ENGINEERING NOVA_WEEKLY BUILD, synced to DSGS_PI2_POSTPC_FLO_DSBU7_NG3K_11
05
Copyright (c) 1986-2012 by Cisco Systems, Inc.
Compiled Sun 16-S
    Configuration register = 0x102

Peer (slot: 0) information is not available because it is in 'DISABLED' state
デバイス#
    
```

次の例では、冗長ファシリティクライアント情報を表示する方法を示します。

```

デバイス# show redundancy clients
Group ID = 1
clientID = 20002    clientSeq = 4    EICORE HA Client
clientID = 24100    clientSeq = 5    WCM_CAPWAP
clientID = 24101    clientSeq = 6    WCM_RRM HA
clientID = 24103    clientSeq = 8    WCM_QOS HA
clientID = 24105    clientSeq = 10   WCM_MOBILITY
clientID = 24106    clientSeq = 11   WCM_DOT1X
clientID = 24107    clientSeq = 12   WCM_APFROGUE
clientID = 24110    clientSeq = 15   WCM_CIDS
clientID = 24111    clientSeq = 16   WCM_NETFLOW
clientID = 24112    clientSeq = 17   WCM_MCAST
clientID = 24120    clientSeq = 18   wcm_comet
clientID = 24001    clientSeq = 21   Table Manager Client
clientID = 20010    clientSeq = 24   SNMP SA HA Client
clientID = 20007    clientSeq = 27   Installer HA Client
clientID = 29       clientSeq = 60   Redundancy Mode RF
clientID = 139      clientSeq = 61   IfIndex
clientID = 3300     clientSeq = 62   Persistent Variable
clientID = 25       clientSeq = 68   CHKPT RF
clientID = 20005    clientSeq = 74   IIF-shim
clientID = 10001    clientSeq = 82   QEMU Platform RF
    
```

<output truncated>

出力には、次の情報が表示されます。

- **clientID** には、クライアントの ID 番号が表示されます。
- **clientSeq** には、クライアントの通知シーケンス番号が表示されます。
- 現在の冗長ファシリティの状態。

次の例では、冗長ファシリティカウンタ情報を表示する方法を示します。

デバイス# **show redundancy counters**

Redundancy Facility OMs

```

comm link up = 0
comm link down = 0
invalid client tx = 0
null tx by client = 0
tx failures = 0
tx msg length invalid = 0

client not rxing msgs = 0
rx peer msg routing errors = 0
null peer msg rx = 0
errored peer msg rx = 0

buffers tx = 0
tx buffers unavailable = 0
buffers rx = 0
buffer release errors = 0

duplicate client registers = 0
failed to register client = 0
Invalid client syncs = 0

```

デバイス#

次の例では、冗長ファシリティ履歴情報を表示する方法を示します。

デバイス# **show redundancy history**

```

00:00:00 *my state = INITIALIZATION(2) peer state = DISABLED(1)
00:00:00 RF_EVENT_INITIALIZATION(524) op=0 rc=0
00:00:00 *my state = NEGOTIATION(3) peer state = DISABLED(1)
00:00:01 client added: Table Manager Client(24001) seq=21
00:00:01 client added: SNMP SA HA Client(20010) seq=24
00:00:06 client added: WCM_CAPWAP(24100) seq=5
00:00:06 client added: WCM_QOS HA(24103) seq=8
00:00:07 client added: WCM_DOT1X(24106) seq=11
00:00:07 client added: EICORE HA Client(20002) seq=4
00:00:09 client added: WCM_MOBILITY(24105) seq=10
00:00:09 client added: WCM_NETFLOW(24111) seq=16
00:00:09 client added: WCM_APPFROGUE(24107) seq=12
00:00:09 client added: WCM_RRM HA(24101) seq=6
00:00:09 client added: WCM_MCAST(24112) seq=17
00:00:09 client added: WCM_CIDS(24110) seq=15
00:00:09 client added: wcm_comet(24120) seq=18
00:00:22 RF_STATUS_REDUNDANCY_MODE_CHANGE(405) First Slave(0) op=0 rc=0
00:00:22 RF_STATUS_REDUNDANCY_MODE_CHANGE(405) Slave(6107) op=0 rc=0
00:00:22 RF_STATUS_REDUNDANCY_MODE_CHANGE(405) Slave(6109) op=0 rc=0
00:00:22 RF_STATUS_REDUNDANCY_MODE_CHANGE(405) Slave(6128) op=0 rc=0

```



```
00:00:22 RF_STATUS_REDUNDANCY_MODE_CHANGE(405) Slave(8897) op=0 rc=0
00:00:22 RF_STATUS_REDUNDANCY_MODE_CHANGE(405) Slave(8898) op=0 rc=0
00:00:22 RF_STATUS_REDUNDANCY_MODE_CHANGE(405) Slave(8901) op=0 rc=0
00:00:22 RF_EVENT_SLAVE_STATUS_DONE(523) First Slave(0) op=405 rc=0
00:00:22 RF_STATUS_REDUNDANCY_MODE_CHANGE(405) Redundancy Mode RF(29) op=0 rc=0
00:00:22 RF_STATUS_REDUNDANCY_MODE_CHANGE(405) IfIndex(139) op=0 rc=0
```

<output truncated>

次の例では、冗長ファシリティスレーブに関する情報を表示する方法を示します。

```
デバイス# show redundancy slaves
Group ID = 1
Slave/Process ID = 6107 Slave Name = [installer]
Slave/Process ID = 6109 Slave Name = [eicored]
Slave/Process ID = 6128 Slave Name = [snmp_subagent]
Slave/Process ID = 8897 Slave Name = [wcm]
Slave/Process ID = 8898 Slave Name = [table_mgr]
Slave/Process ID = 8901 Slave Name = [iosd]
```

デバイス#

次の例では、冗長ファシリティの状態に関する情報を表示する方法を示します。

```
デバイス# show redundancy states
my state = 13 -ACTIVE
peer state = 1 -DISABLED
Mode = Simplex
Unit ID = 1

Redundancy Mode (Operational) = SSO
Redundancy Mode (Configured) = SSO
Redundancy State = Non Redundant
Manual Swact = disabled (system is simplex (no peer unit))

Communications = Down Reason: Simplex mode

client count = 75
client_notification_TMR = 360000 milliseconds
keep_alive TMR = 9000 milliseconds
keep_alive count = 0
keep_alive threshold = 18
RF debug mask = 0
```

デバイス#

show redundancy config-sync

コンフィギュレーション同期障害情報または無視された Mismatched Command List (MCL) (存在する場合) を表示するには、EXEC モードで **show redundancy config-sync** コマンドを使用します。

show redundancy config-sync {failures {bem | mcl | prc} | ignored failures mcl}

構文の説明	failures	MCL エントリまたはベスト エフォート方式 (BEM) /パーサー リターン コード (PRC) の障害を表示します。
	bem	BEM 障害コマンドリストを表示し、スタンバイスイッチを強制的にリブートします。
	mcl	スイッチの実行コンフィギュレーションに存在するがスタンバイスイッチのイメージでサポートされていないコマンドを表示し、スタンバイスイッチを強制的にリブートします。
	prc	PRC 障害コマンドリストを表示し、スタンバイスイッチを強制的にリブートします。
	ignored failures mcl	無視された MCL 障害を表示します。

コマンド デフォルト なし

コマンド モード ユーザ EXEC
特権 EXEC

コマンド履歴	リリース	変更内容
	Cisco IOS XE Everest 16.5.1a	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン 2つのバージョンの Cisco IOS イメージが含まれている場合は、それぞれのイメージによってサポートされるコマンドセットが異なる可能性があります。このような不一致コマンドのいずれかがアクティブスイッチで実行された場合、スタンバイスイッチでそのコマンドを認識できない可能性があり、これにより設定の不一致状態が発生します。バルク同期中にスタンバイスイッチでコマンドの構文チェックが失敗すると、コマンドはMCLに移動し、スタンバイスイッチはリセットされます。すべての不一致コマンドを表示するには、**show redundancy config-sync failures mcl** コマンドを使用します。

MCL を消去するには、次の手順を実行します。

1. アクティブスイッチの実行コンフィギュレーションから、不一致コマンドをすべて削除します。

2. **redundancy config-sync validate mismatched-commands** コマンドを使用して、修正した実行コンフィギュレーションに基づいて MCL を再確認します。
3. スタンバイスイッチをリロードします。

または、次の手順を実行して MCL を無視することもできます。

1. **redundancy config-sync ignore mismatched-commands** コマンドを入力します。
2. スタンバイスイッチをリロードします。システムは SSO モードに遷移します。



(注) 不一致コマンドを無視する場合、アクティブスイッチとスタンバイスイッチの同期していないコンフィギュレーションは存在したままです。

3. 無視された MCL は、**show redundancy config-sync ignored mcl** コマンドを使用して確認できます。

各コマンドでは、そのコマンドを実装するアクション機能において戻りコードが設定されます。この戻りコードは、コマンドが正常に実行されたかどうかを示します。アクティブスイッチは、コマンドの実行後に PRC を維持します。スタンバイスイッチはコマンドを実行し、アクティブスイッチに PRC を返します。これら 2 つの PRC が一致しないと、PRC 障害が発生します。バルク同期または 1 行ごとの (LBL) 同期中にスタンバイスイッチで PRC エラーが生じた場合、スタンバイスイッチはリセットされます。すべての PRC 障害を表示するには、**show redundancy config-sync failures prc** コマンドを使用します。

ベスト エフォート方式 (BEM) エラーを表示するには、**show redundancy config-sync failures bem** コマンドを使用します。

次に、BEM 障害を表示する例を示します。

```
デバイス> show redundancy config-sync failures bem
BEM Failed Command List
-----

The list is Empty
```

次に、MCL 障害を表示する例を示します。

```
デバイス> show redundancy config-sync failures mcl
Mismatched Command List
-----

The list is Empty
```

次に、PRC 障害を表示する例を示します。

```
デバイス# show redundancy config-sync failures prc
PRC Failed Command List
-----
```

```
show redundancy config-sync
```

```
The list is Empty
```

show switch

スタックメンバまたはスイッチスタックに関連した情報を表示するには、EXECモードで **show switch** コマンドを使用します。

show switch [*stack-member-number* | **detail** | **neighbors** | **stack-ports** [{**summary**}]]

構文の説明	<i>stack-member-number</i>	(任意) スタック メンバ数。指定できる範囲は1～9です。
	detail	(任意) スタック リングの詳細情報を表示します。
	neighbors	(任意) スイッチ スタック全体のネイバーを表示します。
	stack-ports	(任意) スイッチ スタック全体のポート情報を表示します。
	summary	(任意) スタックケーブルの長さ、スタックリンクのステータス、およびループバックのステータスを表示します。

コマンドデフォルト なし

コマンドモード ユーザ EXEC
特権 EXEC

コマンド履歴	リリース	変更内容
	Cisco IOS XE Everest 16.5.1a	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン このコマンドでは、次のステートが表示されます。

- **Initializing** : スイッチはスタックに追加されたばかりで、**ready** 状態になるための基本的な初期化が完了していません。
- **HA Sync in Progress** : スタンバイが選出されると、同期が終了するまで対応するスイッチはこの状態のままになります。
- **Syncing** : 既存のスタックに追加されたスイッチは、スイッチ追加シーケンスが完了するまでこの状態のままになります。
- **Ready** : メンバがシステム レベルおよびインターフェイス レベルの設定のロードを完了し、トラフィックを転送できるようになっています。

- **V-Mismatch** : Version-Mismatch モードのスイッチ。Version-Mismatch モードは、スタックに参加したスイッチのソフトウェアバージョンがアクティブスイッチと非互換である場合です。
- **Provisioned** : スイッチ スタックのアクティブ メンバになる前にすでに設定されていたスイッチの状態です。プロビジョニングされたスイッチでは、MAC アドレスおよびプライオリティ番号は、常に 0 と表示されます。
- **Unprovisioned** : プロビジョニングされたスイッチ番号が **no switch switch-number provision** コマンドを使用してプロビジョニング解除された場合の状態です。
- **Removed** : スタックに存在していたスイッチが、**reload slot** コマンドを使用して除外された場合です。
- **Sync not started** : 複数のスイッチが既存のスタックに同時に追加された場合、アクティブスイッチが 1 台ずつ追加します。追加中のスイッチは **Syncing** 状態になります。まだ追加されていないスイッチは **Sync not started** 状態になります。
- **Lic-Mismatch** : スイッチのライセンスレベルがアクティブスイッチと異なります。

スタックメンバ（アクティブスイッチを含む）の代表的なステート遷移は、Waiting>Initializing>Ready です。

Version Mismatch (VM) モードのスタックメンバの代表的なステート遷移は、Waiting > Ver Mismatch です。

スイッチスタックにプロビジョニングされたスイッチが存在するかどうかを識別するには、**show switch** コマンドを使用できます。**show running-config** および **show startup-config** 特権 EXEC コマンドでは、この情報は提供されません。

永続的 MAC アドレスがイネーブルになっている場合、スタックの MAC-persistence wait-time も表示されます。

例

次に、スタック情報の概要を表示する例を示します。

次に、スタック情報の詳細を表示する例を示します。

次に、メンバ 6 の要約情報を表示する例を示します。

```

デバイス# show switch 6
Switch#  Role      Mac Address      Priority    State
-----  -
6         Member      0003.e31a.1e00   1          Ready

```

次に、スタックに関するネイバー情報を表示する例を示します。

```

デバイス# show switch neighbors
Switch #  Port A      Port B
-----  -
6         None       8
8         6          None

```

次に、スタック ポート情報を表示する例を示します。

```

デバイス# show switch stack-ports
Switch #   Port A   Port B
-----
6          Down    Ok
8          Ok      Down
    
```

次に、**show switch stack-ports summary** コマンドの出力例を示します。次の表に、この出力で表示されるフィールドについて説明します。

```

デバイス# show switch stack-ports summary
Switch#/  Stack  Neighbor  Cable  Link  Link  Sync  #  In
Port#    Port  Status    Length OK   Active OK  Changes  Loopback
                To LinkOK
-----
1/1      Down  2         50 cm  No   NO   No   10   No
1/2      Ok    3         1 m    Yes  Yes  Yes  0    No
2/1      Ok    5         3 m    Yes  Yes  Yes  0    No
2/2      Down  1         50 cm  No   No   No   10   No
3/1      Ok    1         1 m    Yes  Yes  Yes  0    No
3/2      Ok    5         1 m    Yes  Yes  Yes  0    No
5/1      Ok    3         1 m    Yes  Yes  Yes  0    No
5/2      Ok    2         3 m    Yes  Yes  Yes  0    No
    
```

表 1: show switch stack-ports summary コマンドの出力

フィールド	説明
Switch#/Port#	メンバー番号と、そのスタックポート番号。
スタックポートのステータス	スタックポートのステータス。 <ul style="list-style-type: none"> • Down : ケーブルは検出されましたが、接続されたネイバーがアップになっていないか、スタックポートがディセーブルになっています。 • OK : ケーブルが検出され、接続済みのネイバーが起動しています。
ネイバー	スタックケーブルの接続先の、アクティブなメンバーのスイッチの数。
ケーブル長	有効な長さは 50 cm、1 m、または 3 m です。 スイッチがケーブルの長さを検出できない場合は、値は <i>no cable</i> になります。ケーブルが接続されていないか、リンクが信頼できない可能性があります。
リンク OK	スタックケーブルが接続され機能しているかどうか。相手側には、接続されたネイバーが存在する場合も、そうでない場合もあります。 リンクパートナーは、ネイバースイッチ上のスタックポートのことです。 <ul style="list-style-type: none"> • No : このポートに接続されているスタックケーブルがないか、スタックケーブルが機能していません。 • Yes : このポートには正常に機能するスタックケーブルが接続されています。

フィールド	説明
リンクアクティブ	<p>スタックケーブル相手側にネイバーが接続されているかどうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> • No : 相手側にネイバーが検出されません。ポートは、このリンクからトラフィックを送信できません。 • Yes : 相手側にネイバーが検出されました。ポートは、このリンクからトラフィックを送信できます。
同期 OK	<p>リンクパートナーが、スタックポートに有効なプロトコルメッセージを送信するかどうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> • No : リンクパートナーからスタックポートに有効なプロトコルメッセージが送信されません。 • Yes : リンクの相手側は、ポートに有効なプロトコルメッセージを送信します。
# Changes to LinkOK	<p>リンクの相対的安定性。</p> <p>短期間で多数の変更が行われた場合は、リンクのフラップが発生することがあります。</p>
ループバック内	<p>スタックケーブルがメンバのスタックポートに接続されているかどうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> • No : メンバ上の少なくとも1つのスタックポートに接続済みのスタックケーブルがあります。 • Yes : メンバーのどのスタックポートにも、スタックケーブルが接続されていません。

show switch stack-mode

デバイスの現在のスタックモードを表示し確認するには、特権 EXEC モードでコマンド **show switch stack-mode** を使用します。

show switch stack-mode

コマンド デフォルト	なし				
コマンド モード	priviledged EXEC				
コマンド履歴	<table border="1"> <thead> <tr> <th>リリース</th> <th>変更内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>Cisco IOS XE Everest 16.6.1</td> <td>このコマンドが導入されました。</td> </tr> </tbody> </table>	リリース	変更内容	Cisco IOS XE Everest 16.6.1	このコマンドが導入されました。
リリース	変更内容				
Cisco IOS XE Everest 16.6.1	このコマンドが導入されました。				

使用上のガイドライン **show switch stack-mode** コマンドは、現在実行しているスタックモードの詳細なステータスを表示します。スタック内のそれぞれのデバイスに表示されるフィールドには、デバイスのロール、その MAC アドレス、再起動後のスタックモード、現在のスタックモードなどがあります。

```
Device# show switch stack-mode
Switch  Role      Mac Address      Version  Mode      Configured  State
-----
1       Member  3c5e.c357.c880   V05     1+1'     Active'     Ready
*2      Active  547c.69de.cd00   V05     1+1'     Standby'    Ready
3       Member  547c.6965.cf80   V05     1+1'     Member'     Ready
```

Mode フィールドには、現在のスタック モードが表示されます。

Configured フィールドは、再起動後に想定されるデバイス状態を参照します。

単一引用符 (') は、スタック モードが変更されていることを示します。

stack-mac persistent timer

固定MACアドレス機能を有効にするには、スイッチスタックまたはスタンドアロンスイッチのグローバル コンフィギュレーション モードで **stack-mac persistent timer** コマンドを使用します。固定 MAC アドレス機能をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

stack-mac persistent timer [*{0time-value}*]
no stack-mac persistent timer

構文の説明

0 (任意) 現在のアクティブスイッチのMACアドレスの使用を無期限に継続し、新しいアクティブスイッチが引き継いだ場合もそうします。

time-value (任意) スタック MAC アドレスが新しい active switch の MAC アドレスに変わるまでの時間 (分単位)。指定できる範囲は 1 ~ 60 分です。

コマンド デフォルト

固定 MAC アドレスはディセーブルに設定されています。スタックの MAC アドレスは常に、active switch の MAC アドレスです。

コマンド モード

グローバル コンフィギュレーション

コマンド履歴

リリース	変更内容
Cisco IOS XE Everest 16.5.1a	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

デフォルトでは、新しいアクティブスイッチが引き継ぐ場合でも、スタック MAC アドレスは最初のアクティブスイッチの MAC アドレスになります。**stack-mac persistent timer** コマンドまたは **stack-mac persistent timer 0** コマンドを入力すると、同じ動作が発生します。



(注) PAgP フラップを回避するには、**command stack-mac persistent timer 0** を使用してスタック MAC 永続待機タイマーを無期限に設定する必要があります。

stack-mac persistent timer コマンドを *time-value* とともに入力すると、新しいスイッチがアクティブスイッチになったときに、入力した時間の後にスタック MAC アドレスが新しいアクティブスイッチのものに変わります。以前のアクティブスイッチがこの時間内にスタックに再加入した場合、スタックはその MAC アドレスを持つスイッチがスタック内に存在する限り、その MAC アドレスを保持します。

スタック全体をリロードすると、アクティブスイッチの MAC アドレスがスタックの MAC アドレスになります。



- (注) スタック MAC アドレスを変更しない場合、レイヤ 3 インターフェイスのフラップが発生しません。これは、未知の MAC アドレス（スタック内のスイッチに属さない MAC アドレス）がスタック MAC アドレスになる可能性があることを意味します。この未知の MAC アドレスを持つスイッチが別のスタックにアクティブスイッチとして参加すると、2つのスタックが同じスタック MAC アドレスを持つこととなります。**stack-mac update force** コマンドを使用して、この競合を解決する必要があります。

例

次に、固定 MAC アドレスをイネーブルにする例を示します。

```
デバイス(config)# stack-mac persistent timer
```

設定を確認するには、**show running-config** 特権 EXEC コマンドを入力します。イネーブルの場合、出力に **stack-mac persistent timer** が表示されます。

stack-mac update force

スタック MAC アドレスをアクティブスイッチの MAC アドレスに更新するには、アクティブスイッチの EXEC モードで **stack-mac update force** コマンドを使用します。

stack-mac update force

構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

ユーザ EXEC

特権 EXEC

コマンド履歴

リリース	変更内容
Cisco IOS XE Everest 16.5.1a	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

デフォルトでは、ハイ アベイラビリティ (HA) フェールオーバー時に、スタックの MAC アドレスは新しいアクティブスイッチの MAC アドレスに変更されません。スタック MAC アドレスが新しいアクティブスイッチの MAC アドレスに強制的に変更されるようにするには、**stack-mac update force** コマンドを使用します。

スタック MAC アドレスと同じ MAC アドレスを持つスイッチが現在そのスタックのメンバである場合、**stack-mac update force** コマンドは無効です (スタック MAC アドレスはアクティブスイッチの MAC アドレスに更新されません)。



- (注) スタック MAC アドレスを変更しない場合、レイヤ 3 インターフェイスのフラップが発生しません。これは、未知の MAC アドレス (スタック内のスイッチに属さない MAC アドレス) がスタック MAC アドレスになる可能性があることを意味します。この未知の MAC アドレスを持つスイッチが別のスタックにアクティブスイッチとして参加すると、2つのスタックが同じスタック MAC アドレスを持つこととなります。**stack-mac update force** コマンドを使用して、この競合を解決する必要があります。

次に、スタック MAC アドレスをアクティブスイッチの MAC アドレスに更新する例を示します。

```
デバイス> stack-mac update force
デバイス>
```

設定を確認するには、**show switch** 特権 EXEC コマンドを入力します。スタック MAC アドレスには、MAC アドレスがローカルと未知のどちらであるかも含まれます。

standby console enable

スタンバイ スイッチ コンソールへのアクセスをイネーブルにするには、冗長メイン コンフィギュレーション サブモードで **standby console enable** コマンドを使用します。スタンバイ スイッチ コンソールへのアクセスをディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

standby console enable
no standby console enable

構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

コマンド デフォルト

スタンバイ スイッチ コンソールへのアクセスはディセーブルです。

コマンド モード

冗長メイン コンフィギュレーション サブモード

コマンド履歴

リリース	変更内容
Cisco IOS XE Everest 16.5.1a	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

このコマンドは、スタンバイ コンソールに関する特定のデータを収集し、確認するために使用されます。コマンドは、主にシスコのテクニカル サポート担当がスイッチのトラブルシューティングを行うのに役立ちます。

次に、冗長メイン コンフィギュレーション サブモードを開始し、スタンバイ コンソール スイッチへのアクセスをイネーブルにする例を示します。

```
デバイス (config) # redundancy
デバイス (config-red) # main-cpu
デバイス (config-r-mc) # standby console enable
デバイス (config-r-mc) #
```

switch clear stack-mode

スタックモードを N+1 に変更して、アクティブおよびスタンバイの 1:1 モードの割り当てを削除するには、特権 EXEC モードで **switch clear stack-mode** コマンドを使用します。

switch clear stack-mode

コマンド デフォルト なし

コマンド モード privileged EXEC

コマンド履歴	リリース	変更内容
	Cisco IOS XE Everest 16.6.1	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン 1:1 の冗長モードをディセーブルにし、スタックを N+1 モードに設定するには、このコマンドを使用します。

```
Device> enable
Device# switch clear stack-mode
WARNING: Clearing the chassis HA configuration will result in the chassis coming up in
Stand Alone mode after reboot.The HA configuration will remain the same on other chassis.
Do you wish to continue? [y/n]? [yes]:
```

switch switch-number role

スタック内のデバイスのロールをアクティブまたはスタンバイのいずれかに変更するには、特権 EXEC モードで **switch switch-number role** コマンドを使用します。

switch switch-number role {standby | active}

構文の説明

構文の説明	<i>switch-number</i>	スタック メンバの番号です。
	standby	デバイスをスタックのスタンバイ デバイスとして指定します。
	active	デバイスをスタックのアクティブなデバイスとして指定します。

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

priviledged EXEC

コマンド履歴

リリース	変更内容
Cisco IOS XE Everest 16.6.1	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

デバイスをスタック内のアクティブ ロールまたはスタンバイ ロールに設定するには、このコマンドを使用します。スタック内の他のデバイスはスタックのメンバのまま残ります。



- (注) デバイスのロールを変更すると、冗長モードがスタックに対して 1:1 のモードに設定されません。設定されたアクティブまたはスタンバイデバイスが起動しない場合、スタックは起動することができません。

次に、デバイス 2 をアクティブなデバイスに、デバイス 1 をスタックのスタンバイ デバイスに設定する例を示します。

```
Device> enable
Device# switch 2 role active
WARNING: Changing the switch role may result in redundancy mode being configured to 1+1 mode for this stack. If the configured Active or Standby switch numbers do not boot up, then the stack will not be able to boot. Do you want to continue?[y/n]? : yes
```

```
Device# switch 1 role standby
WARNING: Changing the switch role may result in redundancy mode being configured to 1+1
```

mode for this stack. If the configured Active or Standby switch numbers do not boot up, then the stack will not be able to boot. Do you want to continue?[y/n]? : **yes**

switch stack port

メンバの指定されたスタックポートをディセーブルまたはイネーブルにするには、スタックメンバの特権 EXEC モードで **switch** コマンドを使用します。

switch stack-member-number stack port port-number {disable|enable}

構文の説明

stack-member-number 現在のスタック メンバ番号。指定できる範囲は 1～8 です。

stack port port-number メンバ上のスタック ポートを指定します。指定できる範囲は 1～2 です。

disable 指定したポートをディセーブルにします。

enable 指定されたポートをイネーブルにします。

コマンドデフォルト

スタック ポートはイネーブルです。

コマンドモード

特権 EXEC

コマンド履歴

リリース	変更内容
Cisco IOS XE Everest 16.5.1a	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

スタックが次の状態 スタックが **full-ring** 状態になるのは、すべてのスタック メンバがスタック ポートを使用して接続され、**ready** 状態になっている場合です。

スタックが次の状態 スタックが **partial-ring** 状態になるのは、次が発生したときです。

- すべてのメンバがスタック ポートを通じて接続されたが、一部が **ready** ステートではない。
- スタック ポートを通じて接続されていないメンバーがある。



(注) **switch stack-member-number stack port port-number disable** コマンドを使用するときは注意してください。スタックポートをディセーブルにすると、スタックは半分の帯域幅で稼働します。

switch stack-member-number stack port port-number disable 特権 EXEC コマンドを入力し、スタックが **full-ring** 状態にある場合、ディセーブルにできるスタックポートは 1 つだけです。次のメッセージが表示されます。

```
Enabling/disabling a stack port may cause undesired stack changes. Continue?[confirm]
```

switch stack-member-number stack port port-number disable 特権 EXEC コマンドを入力し、スタックが **partial-ring** 状態にある場合、ポートはディセーブルにできません。次のメッセージが表示されます。

```
Disabling stack port not allowed with current stack configuration.
```

例

次に、member 4 上の stack port 2 をディセーブルにする方法の例を示します。

```
デバイス# switch 4 stack port 2 disable
```

switch priority

スタックメンバのプライオリティ値を変更するには、active switchの EXEC モードで **switch priority** コマンドを使用します。

switch *stack-member-number* **priority** *new-priority-value*

構文の説明

stack-member-number 現在のスタック メンバ番号。指定できる範囲は 1 ～ 8 です。

new-priority-value スタック メンバの新しいプライオリティ値指定できる範囲は 1 ～ 15 です。

コマンドデフォルト

デフォルトのプライオリティ値は 1 です。

コマンドモード

ユーザ EXEC

特権 EXEC

コマンド履歴

リリース	変更内容
Cisco IOS XE Everest 16.5.1a	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

新しいプライオリティ値は、新しい active switch 選定の要素になります。プライオリティ値を変更しても、active switch がただちに変更されることはありません。

例

次の例では、スタック メンバ 6 のプライオリティ値を 8 に変更する方法を示します。

```
デバイス# switch 6 priority 8
Changing the Switch Priority of Switch Number 6 to 8
Do you want to continue?[confirm]
```

switch provision

新しいスイッチがスイッチスタックに追加される前に構成設定するには、**active switch**のグローバルコンフィギュレーションモードで **switch provision** コマンドを使用します。除外されたスイッチ（スタックを離れたスタックメンバ）に対応するすべての設定情報を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

switch stack-member-number provision type
no switch stack-member-number provision

構文の説明

stack-member-number スタックメンバの番号です。指定できる範囲は1～8です。

type 新しいスイッチがスタックに加入する前の、このスイッチのタイプ。

コマンド デフォルト

スイッチは、プロビジョニングされていません。

コマンド モード

グローバル コンフィギュレーション

コマンド履歴

リリース	変更内容
Cisco IOS XE Everest 16.5.1a	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

type には、コマンドラインヘルプストリングに示されたサポート対象のスイッチのモデル番号を入力します。

エラーメッセージを受信しないようにするには、このコマンドの **no** 形式を使用してプロビジョニングされた設定を削除する前に、スイッチスタックから指定のスイッチを削除する必要があります。

スイッチタイプを変更する場合も、スイッチスタックから指定のスイッチを削除する必要があります。スイッチタイプを変更しない場合でも、スイッチスタック内に物理的に存在するプロビジョニングされたスイッチのスタックメンバ番号を変更できます。

プロビジョニングされたスイッチのタイプが、スタック上のプロビジョニングされた設定のスイッチタイプと一致しない場合、スイッチスタックはプロビジョニングされたスイッチにデフォルト設定を適用し、これをスタックに追加します。スイッチスタックでは、デフォルト設定を適用する場合にメッセージを表示します。

プロビジョニング情報は、スイッチスタックの実行コンフィギュレーションで表示されます。**copy running-config startup-config** 特権 EXEC コマンドを入力すると、プロビジョニングされた設定がスイッチスタックのスタートアップコンフィギュレーションファイルに保存されます。



注意 **switch provision** コマンドを使用すると、プロビジョニングされた設定にメモリが割り当てられます。新しいスイッチタイプが設定されたときに、以前割り当てられたメモリのすべてが解放されるわけではありません。そのため、このコマンドをおおよそ200回を超えて使用しないようにしてください。スイッチのメモリが不足し、予期せぬ動作が発生する可能性があります。

例

次に、スタック メンバー番号2が設定されたスイッチをスイッチスタックに割り当てる例を示します。**show running-config** コマンドの出力は、プロビジョニングされたスイッチに関連付けられたインターフェイスを示します。

```
デバイス(config)# switch 2 provision WS-xxxx
デバイス(config)# end
デバイス# show running-config | include switch 2
!
interface GigabitEthernet2/0/1
!
interface GigabitEthernet2/0/2
!
interface GigabitEthernet2/0/3
<output truncated>
```

また、**show switch** ユーザ EXEC コマンドを入力すると、スイッチスタックのプロビジョニングされたステータスを表示できます。

次の例では、スイッチがスタックから削除される場合に、スタック メンバ5についてのすべての設定情報が削除される方法を示します。

```
デバイス(config)# no switch 5 provision
```

プロビジョニングされたスイッチが、実行コンフィギュレーションで追加または削除されたことを確認するには、**show running-config** 特権 EXEC コマンドを入力します。

switch renumber

スタックメンバ番号を変更するには、active switchの EXEC モードで **switch renumber** コマンドを使用します。

switch *current-stack-member-number* **renumber** *new-stack-member-number*

構文の説明

current-stack-member-number 現在のスタックメンバ番号。指定できる範囲は1～8です。

new-stack-member-number スタックメンバの新しいスタックメンバ番号。指定できる範囲は1～8です。

コマンド デフォルト

デフォルトのスタックメンバ番号は1です。

コマンド モード

ユーザ EXEC

特権 EXEC

コマンド履歴

リリース	変更内容
Cisco IOS XE Everest 16.5.1a	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

指定したメンバ番号をすでに他のスタックメンバが使用している場合、スタックメンバをリロードする際に active switch は使用可能な一番低い番号を割り当てます。



- (注) スタックメンバ番号を変更し、新しいスタックメンバ番号がどの設定にも関連付けされていない場合、そのスタックメンバは現在の設定を廃棄してリセットを行い、デフォルトの設定に戻ります。

プロビジョニングされたスイッチでは、**switch** *current-stack-member-number* **renumber** *new-stack-member-number* コマンドを使用しないでください。使用すると、コマンドは拒否されます。

スタックメンバをリロードし、設定変更を適用するには、**reload slot** *current stack member number* 特権 EXEC コマンドを使用します。

例

次の例では、スタックメンバ6のメンバ番号を7に変更する方法を示しています。

```
デバイス# switch 6 renumber 7
```

```
WARNING:Changing the switch number may result in a configuration change for that switch.
The interface configuration associated with the old switch number will remain as a
provisioned configuration.
```

```
Do you want to continue?[confirm]
```